

右ノ任用制度ノ本旨ハ他ニ及ボスノ意圖ナキ
旨適當ナル機會ニ言明スルモ差支ナキ旨ノ申
越アリタル旨ヲ報告ス
次テ同委員ヨリ右ノ案ニ関シ政府提出ニ係ル
各種修正案ニ付説明アリ各委員ヨリ夫々所見
ノ開陳アリタル結果修正案第二案ニ依ルコト
トシ審査報告書ニ政府ノ右言明ヲ掲グルコト
ト決ス

仍テ窪田審査委員長閉會ヲ宣ス

(午後三時四十分閉會)

大學令中改正ノ件外六件第一回審査委員會

昭和十七年十二月十四日(月曜日)樞密院

事務所ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

清水顧問官

8

樞密院

南(弘)顧問官
 奈良顧問官
 菅原顧問官
 松浦顧問官
 潮顧問官
 林顧問官
 二上顧問官
 貞野顧問官
 三土顧問官

國務大臣

橋田 文部大臣

説明員

森山法制局長官
 入江法制局參事官
 荒木法制局參事官
 竹内内務省管理局长
 菊池文部次官
 藤野文部省總務局长
 瀨瀨文部省國民教育局長
 永井文部省專門學務局长

編
 密
 院

伊藤文部省總務課長

西崎文部省大學課長

清水文部書記官

稻田文部書記官

堀江書記官長

諸橋書記官

高辻書記官

(午前十時十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣シ本案諸件ノ總括的審議
ニ入ル旨ヲ宣ブ

橋田文部大臣ヨリ本案諸件ノ大綱ニ付菊池文
部次官ヨリ其ノ要點ニ付夫々説明アリ
清水委員ヨリ

(一) 本案ノ教育制度ノ改革ハ教育審議會ノ決
議ト相反スル所ヲ含ムモノナルガ之ガ立案
ノ趣旨ハ恒久的ナリヤ臨時的ナリヤヲ訊シ
橋田文部大臣ヨリ學制ノ改革ハ時局ノ推移
ニ基ク要請ニ應ズルモノナルニ由リ一面臨

時的ナルが時局ハ相當長期ニ亙ルベキヲ以テ之が爲教育ノ面ヲ攪亂セシメザル様制度ヲ樹ツルヲ要シ從テ單ナル臨時的措置ニモ非ザル旨

(二)學年短縮ハ當然學力低下ヲ來スベク之ヲ防止スル具體的措置如何トノ質問ニ付テハ菊池文部次官ヨリ學年ハ短縮スルモ機械的ニ非ズシテ新ナル年限ニ於テ教育ノ全體的效果ヲ發揮セシムバク或ハ教授方法ヲ改善シ教授力發揮ノ方途ヲ講ジ或ハ休暇ヲ短縮

シ其ノ他授業日數ヲ按配シ或ハ學生ノ受講ノ心構ヲ改正セシムル等各種ノ要素ヲ調整シ以テ全體的ニ觀テ學力低下ヲ來サザル様留意シ尚學科ノ取扱ニ付テハ例ヘバ中等學校ニ於テ從來相當ノ時間ヲ費シタル外國語ノ授業時數ヲ減ジ或ハ之ヲ隨意科トシ之ニ依リ得タル時間ハ男子ニ付テハ理數科、女子ニ付テハ家政科ノ時間ニ充ツル等ノ措置ヲ講ズベキ旨

(三)教育ノ實際ニ當ル中學校及高等學校ノ當

局ハ本案ノ年限短縮ニ反對ナルモノ、如ク果シテ然ラバ文部當局ノ所期スル成績ハ克ク之ヲ達成シ得ルヤヲ訊シ橋田文部大臣ヨリ本案ニ對スル學校當局ノ見解ハ賛否兩論ヲ存スルモ本案決定ノ上ハ努メテ當局ノ所期スル所ヲ實現セシムベク而シテ之ガ實現ニ確信ヲ有スル旨

(四) 年限短縮ニ依ル學校ノ遊休設備及教員ノ利用方策ヲ問ヒ菊池文部次官ヨリ進學ノ關係上併セテ上級學校ノ収容力ヲ考慮セザル

ベカラザル等ノ關係アリテ無制限ニ遊休設備等ヲ利用スルコト難キモ彼此調整ノ上能ク限り之ガ利用ニカムベキ旨

(五) 中學校及高等學校ノ年限夫々一年短縮セラルルモ判任官又ハ高等官ノ任用資格ニ影響ナキカラ問ヒ森山法制局長官ヨリ本案ノ改正ハ單ニ從前ノ年限ヲ機械的ニ短縮スルニ非ズシテ新ナル年限ニ於テ高等普通教育ヲ授ケントスルモノナルニ由リ之ガ爲官吏ノ任用制度ニ變改ヲ加フルコトナキ旨

編
審
院

(六) 師範學校ノ官立移管ニ伴ヒ豫科職員モ亦
官吏トナリ中等學校教員トノ^間不均衡ノ嫌ナ
キカラ訊シ菊池文部次官ヨリ中等學校教員
ハ依然待遇官吏ニ止マルモ之ガ待遇ノ問題
ハ將來公立學校職員ノ全般ニ亙ル問題トシ
テ考究スベク而シテ待遇ノ差違ニ依リ志望
者ニ質ノ相違ヲ來サシメザル様運用ノ上ニ
於テ注意ヲ加フベキ旨

(休憩 正午—午後一時四十分)

(七) 高等學校及大學豫科ノ二本建ハ之ヲ廢シ

一本建トスルヲ可トスベシトシ當局ノ所見
ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ高等學校ハ總テ大
學入學者ヲ養成スルヲ主眼トスルモ教育ノ
觀點ヨリスレバ從來通り之ヲ獨立セシメ置
クヲ可トシ他面大學豫科ハ學校的又ハ地方
的特殊事情ノ未ダ解消セザル以上之ヲ依然
存置スル旨 夫々答辯アリ

南委員ヨリ

(一) 教育制度ハ人ノ一生ヲ支配シ國家ノ將來
ヲトスベキ百年ノ大計ナリ本案ノ學年短縮

ヲ以テ時局ノ急ニ應ズルモノナリトスレバ
何故ニ之ヲ國家百年ノ大計タル教育制度ト
別個ニ時局ノ急ニ應ズル臨時ノ措置トシテ
立案セザリシカラ訊シ橋田文部大臣ヨリ本
案ノ學制改革ハ時局突破ヲ企圖スルモノナ
ルガ此ノ時局タルヤ相當ノ期間ヲ豫想セラ
ルルノミナラズ之ガ教育ノ體制ナル以上少
クモ或程度ノ持續性ヲ考慮ノ下ニ置キ制度
ヲ樹立スルノ要アリ乃チ百年ノ大計ヲ考慮
スルコトナク應急ノ體制ノミヲ講ズルハ教

育ノ性格上不可能ニシテ兩者ヲ一体トシテ
本案ヲ立案シタルモノナル旨從テ今回ノ時
局が改マリタル際ハ必要ニ應ジ更ニ適當ナ
ル案ノ作成セラルベキ旨

(二) 本案ノ諸學校令ハ國民學校令ト性質ヲ同
ウスルヤ否ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ教育ト
シテハ相連續スルモ制度トシテハ國民學校
令ハ時局ニ關係ナキ永久的ノモノナルガ本
案ノ諸件ハ戰時的要請ニ促進セラレタルモ
ノニシテ此ノ點ニ於テ差違ヲ存スル旨

(三)多年教育上ノ難問題タリシ學年短縮ノ重要事項ニ關シ戰時態勢ヲ調ヘンガ爲トハ云ヒ乍ラ教育審議會ノ決議ニ戻リ獨斷ヲ以テ本案ヲ擧テタルハ適宜ノ措置ト謂ヒ難ク先ヅ臨時ノ措置トシ然ル後ニ本案ノ制度ヲ設クルヲ以テ可トセザリシカヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ本案ハ政府部内ニ於テ熟議ニ熟議ヲ重木決定シタルモノナル旨

(四)我國ノ教育ト外國ノ教育トハ語學ノ上ニ於テ著シキ相違アリ即チ我ニ於テハ國語ノ

習熟ニ多大ノ時間ヲ費シ又系統ヲ異ニスル外國語習得ノ必要アリ從テ教育ノ成果ハ彼此同一ノ期間ヲ以テシテハ同一ノ效果ヲ揚グルコト難シ今日以後外國文化ト競争シ世界ノ最高標準ノ文化ヲ獲得センガ爲ニ本案ノ學年短縮殊ニ高等學校ノ修業年限ヲ二年ニスルハ憂慮ノ外ナシトシ當局ノ所見ヲ求メタルニ對シ橋田文部大臣ヨリ外國語ハ語學ノ才能アル者ニ對シ充分ノ教育ヲ施スモ帝國今日ノ文化ヲ以テスレバ從來ノ如ク

區
密
記

柳
密
陽

之ニ多大ノ努力ヲ費スノ要ナク此等ノ時間
ノ節約ト高校、大學ノ一體の考察ノ下ニ學力
ノ低下ヲ來サシメザル様配意スベキ旨 夫
々答辯アリ

鈴木委員長本日ハ之マデトシ閉會ヲ宣ス
(午後四時十分閉會)

大學令中改正ノ件外六件第二回審査委員會

昭和十七年十二月十六日(水曜日)樞密院
事務所ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木 副議長

審査委員

清水 顧問官

國務大臣

三	真	二	林	潮	松	菅	奈	南
土	野	上			浦	原	良	(弘)
顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
問	問	問	問	問	問	問	問	問
官	官	官	官	官	官	官	官	官

説明員

橋田 文部大臣

森	入	荒	竹	菊	藤	瀨	永
山	江	木	内	池	野	瀨	井
法	法	法	内	文	文	文	文
制	制	制	務	部	部	部	部
局	局	局	省	次	省	省	省
長	參	參	管	官	總	國	專
官	事	事	理		務	民	門
	官	官	局		局	教	學
			長		長	育	務
						局	局
						長	長

西崎文部省大學課長
清水 文部書記官
稻田 文部書記官

堀江 書記官長
諸橋 書記官
高辻 書記官

(午前十時三十五分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

前回ニ引續キ南委員ヨリ

(一) 大學總長ノ親任官制ニ付當局ノ所見ヲ求
メ橋田文部大臣ヨリ大學總長ハ總テ之ヲ親
任官トスルノ希望ヲ存シタルモ大藏省ト折
衝ノ結果明年度ニ於テニ總長ヲ親任官トス
ルノ經費ヲ認メラレタルニ止マリ未ダ孰レ
ノ大學總長ヲ以テスルカハ定マラザル旨
(二) 學年短縮ニ依ル學力ノ低下ヲ防止スル爲
大學院ヲ強化スルノ要アリトシ當局ノ腹案

ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ大學院ノ向上刷新
ハ既ニ企圖シツツアリ明年十月ヨリ實施ノ
豫定ナル旨

(三)實業學校ニ關スル本案改正ノ趣旨ヲ問ヒ
橋田文部大臣及菊池文部次官ヨリ實業學校
ハ從來多種ノ態様ニ分レ年限學科教科書共
ニ複雑ヲ極メタルヲ以テ茲ニ整理ノ要アル
ト他面實業學校ハ中學校ト相竝テ國民ノ中
堅タルベキ者ノ養成ニ當ルコトヲ明ナラシ
メンガ爲法令上中等學校令ニ統一シタル旨

夫々答辯アリ

(休憩午後零時十分―同一時三十分)

奈良委員ヨリ

(一)高等學校ヲ凡テ大學豫科トスルコトニ付
當局ノ所見ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ高等學
校ハ大學ノ基礎教育ヲ施スモノナルガ他面
高等普通教育ヲ完成セシムルノ建前ニ即ス
ルノ要アリ仍テ之ヲ大學豫科ト爲サズ以テ

夫々ノ志望學部ニ對應スル學科ノミニ熱中
シ他ヲ顧ミザルガ如キ弊ヲ避ケントシタル
旨

(二)實業學校ヲ統制スルハ不可ナリトシ之ヲ
敢テシタル理由ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ從
前實業學校ハ動モスレバ中學校ニ比シ傍系
ナルガ如ク觀ラレタル關係アリ故ニ此ノ際
中學校ト等シク國民ノ中堅ヲ養成スルモノ
ナルコトヲ明ニセンガ爲之ヲ統一シ中等學
校令ニ規定シタル旨 夫々答辯アリ

菅原委員ハ先ヅ本案ノ勅令ハ恒久的ナルモノ
ト解スル旨ヲ述べタルニ對シ南委員ヨリ本案
ハ戰時ニ處スルノ措置ナル旨既ニ文部大臣ヨ
リ説明アリト爲シ森山法制局長官ヨリ前回ノ
委員會席上ニ於ケル文部大臣ノ答辯ニ付二様
ノ解釋ヲ生ジタルハ遺憾ナルニ依リ尚政府ニ
於テ協議ノ上更ニ答辯スベキ旨ヲ述べ文部大
臣亦同様趣旨ノ辯明アリ
次デ菅原委員ヨリ

(一)專門學校ノ年限延長又ハ大學昇格ニ付當

局ノ所見ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ從來其ノ種ノ論ヲ存シタルモ今回ハ之ヲ問題トセザリシ旨

(二)文理科大學ノ成績ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ相當ノ成績ヲ揚ゲ居ルモ同大學ハ大學令ノ適用ヲ受ケ教育者ノ養成ニ付テ當初豫期セル效果ハ實現シ居ラザル旨 夫々答辯アリ

鈴木委員長本日ハ之マデトシ閉會ヲ宣ス

(午後四時五分閉會)

大學令中改正ノ件外六件第三回審査委員會

昭和十七年十二月十七日(木曜日)樞密院

事務所ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木 副 議 長

審査委員

清水 顧 問 官

國務大臣

三	真	二	林	潮	松	菅	奈	南
土	野	上			浦	原	良	(弘)
顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
問	問	問	問	問	問	問	問	問
官	官	官	官	官	官	官	官	官

説明員

橋田 文部大臣

森山 法制局長官

入江 法制局參事官

荒木 法制局參事官

竹内 内務省管理局長

菊池 文部次官

瀨瀨 文部省國民教育局長

永井 文部省專門學務局長

清水 文部省書記官

稲田 文部書記官

堀江 書記官長

諸橋 書記官

高辻 書記官

(午前十時三十五分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

松浦委員ハ先ヅ本案ノ學年短縮ニシテ恒久的

制度ナリトスレバ假令大學院等ノ強化擴充ア

リトスルモ其ノ基礎タル學力ノ低下ハ避ケ得

ザルベク畢竟日本文化ノ水準ヲ引下グル結果

ト爲リ到底忍ビ得ザル所ナルガ戰時ノ急ニ應

ズルノ臨時的措置トシテ立案セラレタルモノ

トセハ多少ノ勞力低下モ亦已ムヲ得ザル所ト

シ當局ノ努力ニ依リ之ヲ最少限度ニ止ムルヲ

以テ満足セザルベカラズトシ此ノ前提ノ下ニ

質問ヲ爲ス旨ヲ明ニシ

(一) 師範學校ノ資格ヲ向上スルモ教員ノ待遇

區 密 院

ヲ向上セザレバ人材ヲ誘致スルコト難シト
爲シ之ガ待遇改善ノ方策ヲ問ヒ續續文部省
國民教育局長ヨリ新制ノ國民學校教員ノ俸
給(現在本科訓導ノ平均月給六拾九圓七拾錢)
ハ漸次中等學校教員ノ俸給現在平均月給百
拾四圓)並ニ引上げ從來ノ國民學校教員ノ俸
給モ漸次増俸スベク而シテ別途精神的優遇
ノ措置モ講ズベキ旨

(二)中等學校教員ノ養成機關トシテ師範教育
令ニ依ル高等師範學校ト大學令ニ依ル文理

科大學トヲ存スルモ現在ノ制度ニ對スル當
局ノ所見如何ヲ評シ橋田文部大臣ヨリ中等
學校ノ教員ニ付テハ將來急速ニ檢討ヲ加フ
ルノ要アリ中等學校高級教員ニ大學卒業生
ヲ用フルハ其ノ方策ノ一ナルガ之ガ基準ヲ
設クル爲ニモ高等師範學校臨時教員養成所
ヲ昇格シ師範大學トモ云フベキ大學ヲ設ク
ル等種々考究ノ上適宜ナル方策ヲ樹ツベキ
旨 夫々答辯アリ

潮委員ヨリ

(一)中等學校教員ノ養成ニ關スル師範教育ノ改正ナシニ中等學校ニ關スル教育令ノ改正ヲ爲スハ本末ヲ顛倒シタルモノニシテ少クモ師範教育ノ改正ニ關スル當局ノ所見ノ開陳ナシニハ本案審議ノ全キヲ期シ難シトシ橋田文部大臣ヨリ文理科大學高等師範學校等ノ措置ハ相當重要ナルガ故ニ充分ニ調査審議ノ上明年度ニハ必ず成案ヲ得ベキ旨

(休憩 正午—午後一時三十分)

(二)中等學校及高等學校ニ於ケル入學試験ノ

準備教育ハ學年短縮ニ伴ヒ學校教育ニ一層ノ弊ヲ及ボスモノニシテ此ノ際斷乎之ヲ廢止セシムル要アリトシ之ガ方策如何ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ監督ノ強化及試験方法ノ改善ニ依リ試験準備教育ヲ廢止セシムル様努ムベキ旨

(三)中學校ヲ出デ各種學校ニ入學スル者多數ヲ加フレバ實務ニ就ク者減少シ卒業生ヲシテ速ニ要員充足ニ充テントスル本案趣旨ノ實效ヲ上ケルコト難カルベシトシ橋田文部

大臣ヨリ要員充足ニ妨ナキ様各種學校ハ之ヲ整理スベキ目下調査中ナル旨 夫々答辯アリ

次デ同委員ハ學年短縮ニ依リ勢ヒ學生ノ負擔ハ増大スベク之ガ爲學生ノ體力ニ悪影響ナカラシムル様當局ニ於テ相當注意ヲ拂フベキ旨希望意見ノ開陳アリ

林委員ハ本案ハ事柄自體恒久的性質ヲ有シ法規ノ形式亦何等臨時的色彩ヲ有セズ然レハ結局恒久的制度タラザルヲ得ズトシ教育制度ノ

樹立ニ付テノ根本理念其ノ他ニ付質問シ文部大臣ヨリ夫々説明アリ

二上委員ヨリ

(一)年限短縮ニ對シ學力低下ヲ防止スル爲教授方式ノ改善ニ付當局ニ於テ企圖スル所ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ從來ノ方式ハ時間ノ浪費多ク新制ノ樹立ト共ニ短時間ノ中ニ實際ノ效果ヲ上グベキ方策ヲ研究中ナル旨

(二)中學大學ノ名稱ハ優劣ノ感ヲ抱カシムルノ缺點アリ今回實業學校ヲ中等學校令ニ含

マシメタルハコノ觀點ヨリ退步ナリトシ當
局ノ所見ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ種々考究
シタルモ決局名案ナク中等學校ノ名稱ニ落
着キタル旨 夫々答辯アリ
鈴木委員長本日ハ之迄トシ閉會ヲ宣ス

(午後四時閉會)

大學令中改正ノ件外六件第四回審査委員會

昭和十七年十二月十九日(土曜日)本院事
務所ニ於テ開會

出席者

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

清水顧問官

南(弘)顧問官

國務大臣

三	眞	二	深	林	潮	松	菅	奈
土	野	上	井			浦	原	良
顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
問	問	問	問	問	問	問	問	問
官	官	官	官	官	官	官	官	官

説明員

橋田 文部大臣

森山 法制局長官

入江 法制局參事官

竹内 内務省管理局長

菊池 文部次官

藤野 文部省總務局長

額額 文部省國民教育局長

永井 文部省專門教育局長

清水 文部書記官

編
纂
院

稲田 文部書記官

辻田文部省専門教育課長

堀江 書記官長

諸橋 書記官

高辻 書記官

(午前十時^{十分}開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

二上委員ヨリ

(一)高等學校令第七條が高等學校ニ高等科及尋常科ヲ置クヲ本則トスルハ羊頭狗肉ノ感アリ寧口實情ニ即セシメ尋常科ヲ置クヲ例外トスルヲ可トセザルヤヲ訊シ永井文部省専門教育局長ヨリ舊制ノ所謂七年制高校ハ試験期ニシテ未ダ其ノ存廢ヲ決スベキ時期ニ達セズ東京高校及近ク官立ニ移管セラレベキ富山高枝ノ尋常科ヲ夫々廢止セントスルハ理科増設ノ便宜ニ出テ制度トシテハ從前通り高等科尋常科併置ノ建前ト爲シ置キ

タル旨

(二) 師範學校ヲ専門學校並ニ昇格スルモ國民
學校高等科卒業者ニ付テハ新舊同様ニ在學
期間五年ニ外ナラザルニ依リ本改正ノ理想
ヲ實現スル爲ニハ同校ノ校長及教員ニ人ヲ
得ルコトニ在リトシ其ノ補充方法ヲ問ヒ菊
池文部次官ヨリ教員養成ノ根本方策ヲ樹ツ
ルノ要アルモ取敢ヘズトシテハ現在ノ教員
ニ再教育ヲ施シ努メテ之ヲ維持スベク他面
教授要目ノ作成及教科書ノ編纂ヲ急ギ其ノ

運用ノ全キヲ期シ校長ノ補充ニハ最モ苦心
ヲ要スル所ナルモ既ニ相當ノ確信ヲ得ルニ
至リタル旨

(三) 改正師範教育令ガ舊令ニ存シタル順良信
愛威重ノ徳性涵養ニ付觸ルル所ナキ理由ヲ
問ヒ菊池文部次官ヨリ從來師範教育ノ三徳
目トシテ尊重セラレ來リタルモノナルガ時
勢ノ變遷ト新令ガ皇國ノ道ニ則ル鍊成ナル
表現ヲ採リ入レタル結果右文言ハ之ヲ削除
シタルガ其ノ精神ハ充分之ヲ活カスベキ旨

(四) 新制ノ師範學校ト高等師範學校トハ學年ニ一年ノ差違ヲ存スルニ過ギズ之ガ爲將來兩校ノ志望者ニ相當ノ影響ナキカラテ且兩校ノ連絡關係ヲ問ヒ菊池文部次官ヨリ現實的ニハ危懼ノ點ナシトセザルモ國民學校教育ノ重要性ヲ一般ニ認識セシムルト共ニ國民學校教員ノ所遇ヲ厚クスル等ノ措置ヲ講ジ之ニ對スル志望者ヲ維持スベク師範學校ト^{高等師範學校}連絡ニ付テハ從來ノ實際ニ徴シ進學スル者ノ例少ク新制ノ下ニ於ケル師範學校

卒業者ノ進學先ハ文理科大學ヲ以テスルノ措置ヲ講ズベキ旨

(五) 各案トモ四月一日施行セララルモノナル所附則ノ經過規定中仍從前ノ例ニ依ラシムベキ本令施行ノ際現ニ々々學校ニ在學スル生徒ノ中ニハ四月一日入學ノ者ヲ含ミ從テ之ヲ舊制ニ依ラシメントスルカラテ問ヒ森山法制局長官ヨリ四月一日ノ入學者ハ新制度ニ依ルモノニシテ規定ノ趣旨ハ三月三十一日ヨリ四月一日ニ移行シタル其ノ際在學ス

ル者ヲ舊制ニ由ラシメントスルモノナル旨
(六) 青年學校令ニ依レバ男子ハ十九歳迄義務
制ニシテ他ノ中等學校ニ對シ補充的地位ニ
在ルガ故ニ之ヲモ他ノ中等學校ト同一ノ規
程ニ含マシムルヲ可トストシ當局ノ所見ヲ
求メ續續文部省國民教育局ヨリ青年學校
令ハ之ヲ如何ニスベキカ目下調査研究中ニ
シテ其ノ際右ノ趣旨ハ參考トスベキ旨夫々
答辯アリ

眞野委員ヨリ學年短縮ニ伴ヒ學力ノ低下ハ必

然ニシテ國家ノ將來ニ及ボス影響少カラザル
ベク而モ之ガ措置ノ時局柄已ムヲ得ズトスレ
バ專ラ學力低下ノ防禦策ヲ講ゼザルベカラズ
トシ有用教員ノ養成教授内容ノ改善及大學^院制
度ノ改正ニ關シ所見ヲ述^陳ベ橋田文部大臣ヨリ
答辯アリ

(休憩正午—午後一時四十分)

三土委員ヨリ

（一）從來多年論議ヲ累ネタル學年短縮ヲ断行セントスル理由及曩ニ制定セラレタル所謂學年臨時短縮令ヲ以テシテ足ラズトスル理由ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ本案改正ノ理由ハ單ナル教育論上ノ問題ニ非ズシテ要員ノ急速ナル充足等時局ノ要請ニ出ズルモノナル旨而シテ從來ノ學年臨時短縮令ハ軍要員ノ充足ヲ急速應急的ニ充サントスルモノニシテ教育完成ノ上ニ於テ爲スニ非ザルが故ニ教育界ニ攪亂ヲ來サシメタルが今回ノ改

正ハ學年ハ之ヲ短縮スルモ其ノ間ニ教育ヲ完成セシメントスルモノナル旨

（二）新制ニ依ル教授時間ノ著シキ減少ハ如何ニシテモ之ヲ補充シ得ザルベク從テ學力ノ低下亦避ケ得ザルベシトシ殊ニ高等學校ニ於テハ語學ノ素養少ク大學ニ於ケル研究ニ支障ヲ來スコトナキカラテ評シ橋田文部大臣ヨリ時局下學年ノ短縮ハ已ムヲ得ザル所ニシテ而モ學力ハ之ヲ低下セシムベカラズト爲すが當局ノ希望ナルト同時ニ

努力ノ目標ナル旨而シテ今日大學ノ教授ニ
際シ外國語ヲ用フルコト少ク從テ最早外國
語ノ習得ニ從前同様ノ時間ヲ費ス要ナク更
ニ大學ノ教授方法ニ工夫ヲ加フレバ高等學
校ニ於ケル外國語教授時數ノ減少ヲ嘆スルニ及
ハズト思料スル旨

(三)新制ノ下ニ於ケル六年制高等學校ノ學科
ハ尋常科高等科ノ區別及中學校ニ於ケル例
ニ捉ハルルコトナク其ノ配當ヲ適宜考慮ス
ベシトシ橋田文部大臣ヨリ相當考慮ヲ拂フ

ベキ旨

(四)師範學校ヲ專門學校並ニ昇格スルモ其ノ
卒業生ノ進路ハ大體國民學校長ニ止リニシ
テ之ガ俸給費ヲ總テ國庫負擔トスル以上待
遇ノ向上ニモ自ラ限度アリ然レバ一般ニ師
範學校ヨリ專門學校ヲ選ブベク延テ師範學
校入學者ノ素質低下ノ懸念アリトシ從前程
度ノ學校ヲ以テシテ不可ナリトスル理由ヲ
問ヒ橋田文部大臣ヨリ國民學校ニ於ケル義
務教育ノ延長教授内容ノ高級化及教授方法

區
寄
完

ノ刷新ハ其ノ教員トシテ綜合的學力及素養
ノ高キ者ヲ要求シ之ヲ養成スル爲ニハ從來
程度ノ師範教育ヲ以テシテハ不足ト爲レル
ニ由ル旨而シテ將來國民學校教員ノ待遇ハ
中等學校教員並トシ又適當ナル者ハ更ニ簡
拔シテ中等學校教員タルヲ得ルノ途ヲ開ク
ベク考究中ナル旨

(五)國民學校教員ノ養成ハ現在ノ師範學校制
度ヲ以テ充分ニシテ寧口五十歳ニ至ラズシ
テ罷免セシムルガ如キコトナカラシメバ教

員ノ不足ハ補ツテ餘リアルノミナラズ教育
上モ亦有益ナリトシ他面師範學校ノ官立移
管ハ徒ニ國庫ノ負擔ヲ増加シ將來時局解決
ノ後ハ逸早く整理ノ對象ト爲ラザルヲ保シ
難ク國家的見地ヨリ再考ノ^要アリト爲シ當
局ノ所見ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ我國ニ於
ケル教育費ノ豫算ニ占ムル割合ハ獨逸國ト
比ベ少キハ事實ナルモ指摘ノ點ハ留意スベ
キ旨夫々答辯アリ

鈴木委員長本日ハ之ヲ以テ閉會スル旨ヲ宣ス

(午後四時閉會)

大學令中改正ノ件外六件第五回審査委員會

昭和十七年十二月二十一日(月曜日)本院

事務所ニ於テ開會

出席者

審査委員長

鈴木 副議長

審査委員

清水 顧問官

南(弘) 顧問官

監
密
院

橋田	三	真	二	林	潮	松	菅	奈
田	土	野	上		浦	原	良	
文	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
部	議	問	問	問	問	問	問	問
大	長	官	官	官	官	官	官	官
臣								

欠席者
國務大臣

説明員

森	入	荒	菊	藤	永	額	清	稻
山	江	木	池	野	井	額	水	田
法	法	法	文	文	文	文	文	文
制	制	制	部	部	部	部	部	部
局	局	局	次	省	省	省	省	省
長	參	參	官	總	專	國	書	書
官	事	事		務	門	民	記	記
	官	官		局	教	教	官	官
				長	育	育		
				長	局	局		

(午前十時十分開會)

高諸堀
辻橋江
書書書

記記記
官官官
官官官

鈴木委員長開會ヲ宣ス

三土委員ハ京都帝國大學教授石川興ニ博士外
二三ノ學者ノ著書ニ基キ學者ノ思想傾向ニ憂
慮スベキ廉アルヲ指摘シ當局ノ措置ヲ訊シ橋
田文部大臣ヨリ未ダ之ヲ處斷スルニ充分ナリ
ト斷定シ難キモ尚注視ヲ怠ラズ嚴密ニ取調べ
タル上適宜ノ處置ヲ講ズベキ旨答辯アリ

次テ鈴木委員長ハ大學令中改正ノ件外三件ニ
付細目的審議ニ入ル旨ヲ述ブ
清水委員ヨリ

(一)入學試験制度ノ改正ニ付研究スル所ヲ問
ヒ特定ノ大學へ受験者蝟集スルノ情況ヲ改
善センガ爲ニハ大學相互ノ差等ヲ除去スル
ノ要アリトシ當局ノ所見ヲ求メ永井文部省
専門教育局長ヨリ入學試験問題ハ試験勉強
ノミニ由リ合格シ得ザルガ如キモノヲ選ブ
ベク現ニ高等學校ニ付テハ此ノ觀點ノ下ニ

關係者協議ノ上作成シタル問題ヲ各學校統
一的ニ課シツツアリ明年ヨリ各官立専門學
校ニ付テモ同様措置ヲ講ズベク大學ノ入學
試験ニ付テモ之ガ改善ニ付大學及高等學校
ノ關係者ヲ以テ組織セル委員會ニ於テ目下
研究ヲ爲シツツアリ學校差ノ除去ニ付テハ
只教授ノ配置ニ付テ或程度ノ交流ヲ考慮中
ナル旨

(休憩正午―午後一時三十分)

(二) 高等學校ノ年限短縮ニ伴フ學力低下ヲ防
止センガ爲ノ一策トシテ志望ノ大學學部ノ
學科ニ照應スル學科ハ之ヲ適宜整理スルヲ
可トスベシトシ橋田文部大臣ヨリ高等學校
ガ一面大學豫科タルノ實質ヲ備フルト他面
高等普通教育ノ完成ナル使命ヲ有スル點ヲ
考慮シツツ重點的整理ヲ考究スベキ旨

(三) 中學校教師トシテ大學出身者ト高等師範
學校出身者トノ適任性ヲ問ヒ續續文部省普

通教育局長ヨリ學力ハ前者が教授ノ方法ハ後者が夫々勝レタル所アリ而シテ兩者ノ特長ヲ活サンガ爲師範大學ノ設置ヲ考慮中ナル旨

(四)高等女學校ニ付テモ年限ヲ短縮シタル理由及高等女學校令ニ存シタル婦徳ノ字句ヲ新令ニ於テ除去シタル所以ヲ訊シ續續文部省國民教育局長ヨリ年限ノ短縮ハ卒業期ヲ早クシ社會又ハ家庭ニ於ケル實務ニ就クノ機會ヲ早カラシメントスル趣旨ニ出テ婦徳

ノ點ハ新令ニ所謂皇國ノ道ニ包攝セラレ之ヲ特記セザリシモ教授要綱其ノ他教授ノ方針ニ於テハ従前通り最モ力ヲ致スベキ旨夫々答辯アリ

南委員ヨリ

(一)中等學校令第五條ノ公共團體ノ設置シタル實業學校ヲ私立トシタル理由ヲ問ヒ森山法制局長官ヨリ地方公共團體ノ設置シタル學校ノミヲ公立トシ其ノ職員ニ官吏並ノ待遇ヲ與フルヲ教育制度上ノ建前トシ從テ此

ノ原則ニ則リ夫レ以外ノ公共團體立ハ之ヲ
私立トシタル旨
(二)教科又ハ學科ノ名稱ニ付從來ノ慣用ヲ離
レ徒ニ意味不明ノ表現ヲ用フルヲ難ジ物象
ノ内容ヲ記シ續續文部省國民教育局長ヨリ
物象トハ物質現象ヲ意味シ物理化學ヲ總括
指稱シタル旨 夫々答辯アリ
鈴木委員長本日ハ之迄トシ閉會ヲ宣ス

(午後四時閉會)

大學令中改正ノ件外六件第六回審査委員會

昭和十七年十二月二十二日(又曜日)本院

事務所ニ於テ開會

出席者

審査委員長

鈴木 副議長

審査委員

清水 顧問官

南(弘) 顧問官

橋田	國務大臣	三	真	二	林	潮	松	菅	奈
田		土	野	上			浦	原	良
文		顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
部		問	問	問	問	問	問	問	問
大		官	官	官	官	官	官	官	官
臣									

説明員

入	江	法制局參事官
竹	内	内務省管理局长
菊	池	文部次官
藤	野	文部省總務局长
永	井	文部 ^省 專門教育局長
額	額	文部省國民教育局長
伊	藤	文部省總務課長
清	水	文部省書記官
稻	田	文部省書記官

堀江 書記官長

諸橋 書記官

高辻 書記官

(午後一時四十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

橋田文部大臣ヨリ今回御諮詢ノ教育制度改正ニ關スル諸勅令案が恒久制度ナリヤ又ハ應急

臨時制度ナリヤニ關シ左ノ通り政府ノ所見ニ關シ言明アリ

此ノ勅令案ハ恒久立法デアリマシテソノコトハ立法ノ形式ニ於テ明白ニ現ハレテ居リマス此ノ點ニ於テハ先般ノ修業年限短縮ニ關スル勅令が應急的ノ臨時立法デアルトハ其ノ趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス
今回ノ教育制度ノ改革ニ於テ政府ノ意圖シテ居リマス所ハ教育ニ對シ國家が不斷ニ要望スル所ニ十分意ヲ用ヒマスルト共ニ現下

ノ國防産業其ノ他國策的諸事情ヲ勘案致シ
大東亞戰爭ノ完遂大東亞建設ノ完成ニ備ヘ
時局ガ相當長期ニ亙ル見透シノ下ニ教育ノ
體制ヲ整ヘントスルモノデアリマス即チ今
回ノ教育制度ノ改正ニハ時局トノ關聯ヲ相
當考慮ニ入レテ居ルノデアリマスコノ勅令
案ハ恒常ノ性格ヲ有シテ居リマスガ勿論永
久不變ノモノトハ考ヘテ居リマセン今後情
勢ノ推移ニ伴ヒマシテ必要ヲ生ジマシタ場
合ハ之ガ改正ヲ見ルコトハ當然デアラウト

考ヘマス

森山法制局長官ヨリ右言明中政府ノ意圖ニ關
シ補足的説明アリ

南委員ヨリ

(一)從來何等年限短縮ノ論ナク却テ延長ノ要
ヲ認メラレタル五年生ノ實業學校及高等女
學校ノ年限ヲモ短縮セントスル理由ヲ問ヒ
續續文部省國民教育局長ヨリ速ニ實務ニ就
カシメ又ハ家庭ノ手不足ヲ補ハシメント
而モ之ガ爲サシテ學力ノ低下ヲ來スコトナ

シト思料スルニ由ル旨

(二)中等學校ニ關シ新制ヲ樹ツルモ先ヅ之ニ
對應スベキ教員及教科書ノ準備ヲ為サザル
ハ本末ヲ顛倒スルモノニシテ其ノ成果ニ懸
念アリトシ菊池文部次官ヨリ直ニ國定教科
書ヲ用フルコト能ハザルモ取敢ヘズ特定科
目ニ付新要目ヲ制定シ之ニ即シタル一年生
用ノ教科書ヲ作成セシメ之ヲ當局ニ於テ檢
定シ併セテ指導書ヲ設クル等遺漏ナキヲ期
シツツアル旨

(三)臨時教育會議ノ審議ニ反シ高等學校ノ修
業年限ヲ二年ニテ足レリトスル理由ヲ問ヒ
橋田文部大臣ヨリ學年短縮ハ高等學校大學
ヲ通ジテ觀レバ高等學校ニ於テ之ヲ實施セ
ザルベカラズ是レ難キ當業者ニ強アルモノナルモ
學年短縮ノ要請セラルル以上已ムヲ得ズ休
暇ノ利用全寮制度ノ活用ニ依リ能フ限リノ
補足ヲ為シ萬一之ヲ以テ尚學力不足ノ場合
ハ大學ノ課程ニ於テ之ヲ取戻サントスル旨
夫々答辯アリ

鈴木委員長本日ハ之迄トシ開會ヲ宣ス

(午後四時開會)

大學令中改正ノ件外六件第七回審査委員會

昭和十七年十二月二十三日(水曜日)本院
事務所ニ於テ開會

出席者

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

清水顧問官

南(弘)顧問官

奈良 顧問官

菅原 顧問官

松浦 顧問官

潮 顧問官

林 顧問官

二上 顧問官

真野 顧問官

三土 顧問官

國務大臣

橋田 文部大臣

説明員

森山 法制局長官

入江 法制局參事官

菊池 文部次官

藤野 文部省總務局長

永井 文部省專門教育局長

額瀨 文部省國民教育局長

清水 文部書記官

稲田 文部書記官

伊藤 文部省總務課長

堀江 書記官長
諸橋 書記官
高辻 書記官

(午前十一時開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス
南委員ヨリ

(一) 特定學校へ志望者集中ノ弊ヲ除去セザレ
バ學年短縮ヲ實效アラシムルコト難カルベシ

トシ當局ノ對策ヲ問ヒ永井文部省専門教育
局長ヨリ志望者ノ定員ニ達セザル大學ニ付
テハ追加入學試験ヲ累次施行シ官立ノ高等
専門學校ニ付テモ將來試験期日ヲ別ニシ夫
々下級學校卒業業者中ノ志望者ヲ孰レカ同種
ノ學校ニ收容スベク其ノ他所要ノ措置ヲ考
究スベキ旨答辯アリ

(休憩正午—午後一時三十分)

(二)大學令第一條ニ人格ノ陶冶及國家思想ノ
涵養ヲ大學ノ從タル留意事項トシタルノ不
適當ナル所以ヲ指摘シ橋田文部大臣ヨリ大
學令ハ近ク改正スベク企圖シツツアルニ由
リ其ノ際充分考慮スベキ旨 夫々答辯アリ
次デ同委員ハ左ノ諸點ニ付當局ノ配慮ヲ求ム
一大學總長ノ權限ヲ擴張シテ大學ノ統制ニ
遺憾ナカラシムルコト
二綜合大學ニ於ケル綜合的研究ノ發達ニ資
セシムル爲學部相互ノ連絡ヲ緊密ナラシム

ル制度ヲ設クルコト
三大學教授ノ待遇ヲ向上シ安ジテ研究及學
生ノ指導ニ專念セシメ得ルコトトスルコト
四大學總長ノ親任官制ハ總長タル人ニ即シ
親任トスルノ途ヲ拓キ大學ソノモノニ段階
ヲ設クルガ如キコトナカラシムルコト
奈良委員ハ大學教授ニ對シ官吏服務紀律ノ適
用關係ヲ問ヒ森山法制局長官ヨリ大學教授モ
亦一般官吏トシテ官吏服務紀律ノ適用ヲ受ク
ルモノナルモ大學自治ノ傳統的觀念ヨリ行政

當局が之ニ干渉スルが如キハ實際上遠慮スルノ傾アル旨答辯アリ

松浦委員ヨリ

(一) 青年學校ノ就學義務ノ免除ハ夜間課程ノ中等學校ニ付テハ之ヲ第二學年修了者トシタル理由ヲ問ヒ續續文部省國民教育局長ヨリ夜間課程ノ中學校第二學年修了者ハ中學校第四學年修了者ト同一ノ年齢ニ達スルが故ナル旨

(二) 現行專門學校令第一條第一項及第三項ハ

高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ悉ク專門學校ナリトシ專門學校ハ專門學校令ニ依ルベキコトヲ定メ此ノ意味ニ於テ大學モ高等學校モ專門學校ニ外ナラザルが此等ハ同條第三項ニ所謂特別ノ規定ニ依ルモノト解セラレ結構局各種學校ヲ認メザル建前ナルが今回ノ改正ニ依リ他ノ學校令ニ於ケルト同ジク本令ニ依ラントスルモノハ之ニ依ルモ本令ニ依ルコトヲ欲セザルモノハ各種學校トシテ存在シ得ベク從テ大學類似又ハ高等

學校類似ノ各種學校ガ地方長官ノ認可ノ下ニ設置セラルルニ至ラザルカヲ問ヒ果シテ然ラバ私立學校令ヲ改正シ斯ノ如キ各種學校ハ文部大臣ノ認可ヲ要スルモノトスルノ要アリトシ當局ノ所見ヲ求メ菊池文部次官及森山法制局長官ヨリ従前モ專門學校類似ノ各種學校ノ存在ヲ認メタルモノニシテ其ノ點實體ハ從來ト同様ナル旨永井文部省專門教育局長ヨリ地方長官ノ認可ノ下ニ此ノ種學校ノ濫設セラルルハ遺憾ナルノミナラ

ズ他ノ點ニ付テモ各種學校ノ規定ハ檢討ノ要アルヲ以テ今後充分之ガ改正ニ付考究スベキ旨 夫々答辯アリ

(三)一部特定ノ大學總長ヲ親任官トスルハ各大學間ノ優劣ヲ認ムルコトト爲リ學生ノミナラズ教授其ノ人ニモ面白カラザル感ヲ起サシムル虞アリトシ前示南委員ト同一ノ希望意見ノ開陳アリ

鈴木委員長本日ハ之迄トシ閉會ヲ宣ス

(午後三時五十五分閉會)

大學令中改正ノ件外六件第八回審査委員會
昭和十七年十二月二十四日(木曜日)本院
事務所ニ於テ開會

出席者

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

清水顧問官

南(弘)顧問官

説明員

森	荒	菊	藤	額	永	清	稻
山	木	池	野	文	井	水	田
法制局長官	法制局參事官	文部次官	文部省總務局長	文部省國民教育局長	文部省專門教育局長	文部書記官	文部書記官

國務大臣

橋	三	真	二	林	潮	松	菅	奈
田	土	野	上			浦	原	良
文	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
部	問	問	問	問	問	問	問	問
大	官	官	官	官	官	官	官	官
臣								

堀江 書記官長

諸橋 書記官

高辻 書記官

(午後一時四十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

潮委員ヨリ

(一) 近時學生生徒ニ鍛鍊ヲ強フル結果疲勞ノ色ナシトセザルハ國家ノ將來ニ鑑ミ深慮ニ

堪ヘズトシ當局ノ之ニ對スル所見ヲ求メ續

續文部省國民教育局長ヨリ學生生徒ニ對シ

テハ努メテ畫一的訓練ヲ爲スヲ避ケ他面榮

養ノ補給ニ付テモ注意ヲ拂フベキ旨

(二) 高等學校ハ大學ノ基礎教育ヲ使命トスル

以上大學ノ課程ト睨ミ合セ學科目ノ配置ヲ

爲シ以テ高等學校ノ學年短縮ニ依ル被害ノ

程度ヲ輕減スベシトシ永井文部省專門教育

局長ヨリ大學側ハ高等學校文科ニ在テハ歴

史古典ヲ、同理科ニ在テハ數學、物理、化學、博物

ニ重點ヲ注グコトヲ希望シ當局亦同様ノ所見ヲ持ツニ由リ此ノ方針ノ下ニ時間ノ配當ヲ考究スベキ旨

(三)内地ニ於ケル醫師ノ分布状態ニ鑑ミ及大東亞共榮圈建設ノ必要ニ照シ醫學專門學校程度ノ醫育機關ヲ増設スル要アリトシ當局ノ對策ヲ問ヒ永井文部省專門教育局長ヨリ醫事ハ人命ニ關シ四年程度ノ修業ハ危險ナリトノ定論ニ從ヒ醫育機關ハ大學ナルヲ要スルノ方針ヲ持シ來リタルガ最近無醫村ノ

絶滅軍醫ノ充足及大東亞共榮圈ノ醫療施設ノ充實上設立者ノ確實ニシテ設備ノ行キ届キタルモノニ付テハ專門學校程度ニ差支ヘナシトノ見解ヲ採ルニ至リ近時大學附屬臨時醫學專門學校ヲ設ケ又將來官立ノ醫學專門學校ヲモ設クベキ旨夫々答辯アリ

林委員ヨリ學年短縮ヲ行ハ他面一國文化ノ水準ヲ維持シ寧口之ヲ高揚センガ爲大學院制度ヲ擴充スルノ要アリトシ更ニ高等學校等ニ於ケル寮制度ノ效果ノ如何ハ監督指導ノ任ニ

當ル人、如何ニカカルトシ夫々所見ノ開陳アリ
ニ上委員ヨリ中等學校ニ於テハ科目ハ夫々、
教師が専門的ニ之ヲ分擔スルニ新制ニ於テハ
之等ノ科目ヲ一括シ教科トシ高等學校ニ付テ
モ實質上同様ノ建前トシタル點ニ付當局ノ説
明ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ從來相互ノ科科目
ハ連絡ナキ弊ヲ除カントスルニ由ル旨ノ答辯
アリ
委員長ハ本日ハ之迄トシ開會ヲ宣ス

(午後四時十分閉會)

大學令中改正ノ件外六件第九回審査委員會

昭和十七年十二月二十六日(土曜日)本院
事務所ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木 副議長

審査委員

清水 顧問官

國務大臣

三	眞	二	林	潮	松	菅	奈	南
土	野	上			浦	原	良	弘
顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
問	問	問	問	問	問	問	問	問
官	官	官	官	官	官	官	官	官

説明員

橋田 文部大臣

森山 法制局長官

入江 法制局参事官

荒木 法制局参事官

菊池 文部次官

藤野 文部省總務局長

額瀨 文部省國民教育局長

伊藤 文部省總務課長

稲田 文部書記官

堀江 書記官長
 諸橋 書記官
 高辻 書記官

(午後一時^四十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス
 井上委員ヨリ

(一) 中等學校又ハ高等學校ニ於テ數箇ノ科目ヲ統合セントスルモ綜合ノ實ヲ揚グルハ甚

ク難カルベク却テ知識ノ紛更ヲ來シ何レノ科目ニ付テモ學習ノ先壁ヲ期シ得ザルニ至ルベシトシ高等學校ニ於テ國語漢文ヲ古典科トシ法制經濟ヲ經國科トシ之ヲ如何ニ教授セントスルカヲ問ヒ永井文部省専門教育局長ヨリ國語漢文ノ基本使命ハ國典漢籍ヲ通ジ理解ノ能力ヲ授クルト共ニ遊ツテソノ中ニ躍動スル精神ヲ捉ヘ國體ニ基ク國民的情操ヲ豊ニシ我國ノ傳統ヲ保持セシメントスルニ在リ從テ國典ニセヨ^{漢籍ニセヨ}之ヲ東洋國家タ

ル我國ノ古典トシテ内面的ニ把持シ教授方
針ヲ一貫セントスルモノ又法制經濟ニ付テ
ハ高等學校教育ノ心髓ガ人物養成ニ在ルニ
鑑ミ經濟民的見地ヨリ教科目ヲ纏メ上ケ
具體的事象ノ解明ニ重點ヲ置キ以テ國家觀
念ノ高揚ニ資セシメントスルモノニシテ斯
クテ總論的又ハ結論的ニ學科的統一ヲ圖リ
科目細分ノ際ノ重複ヲ避ケントスル旨

(二)新制ノ中等學校ニ於テハ外國語ノ授業時
間ヲ減少シ而モ其ノ殘レル大部分ヲ選擇履

修セシムルコトトシタル理由ヲ問ヒ續續文
部省國民教育局長ヨリ語學ニ秀デタル者及
上級學校進學者又ハ外國語ヲ必要トスル職
業ニ就カントスル者ニハ之ヲ履修セシメ其
ノ教授方法ヲ改善シテ其ノ効ヲ擧グベク外
國語ニ秀デズ又ハ其ノ履修ヲ必要トセザル
向ニ付テハ其ノ時間ヲ實業科又ハ家政科ニ
振向ケントスルモノナル旨

(三)現行ノ所謂臨時學年短縮令ノ施行期間ガ
當分ノ内トアルニ由テ觀レバ同令ハ本案諸

件ノ特則ヲ爲シ從テ更ニ新制ノ修業年限ヲ短縮スルコトト爲ラザルヤヲ訊シ森山法制局長官ヨリ同令ハ他ノ點ヨリモ改正ノ要アリ其ノ際之ヲ考究スベク而シテ同令改正ニ際シテハ樞密院ニ御諮詢奏請ヲ爲スベキ旨夫々答辯アリ

眞野委員ヨリ當局が動モスレバ地方所在ノ學校ヲ輕視スルヲ不可ナリトシ其ノ他二三ノ點ニ付所見ノ開陳アリ

三土委員ヨリ

(一) 高等學校ノ學年短縮ハ畢竟スルニ一萬八千ノ青年學徒ヲ一年早ク卒業セシメントスルニ歸シ之ガ爲學力ノ低下ヲ敢テスルノ理由ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ聽テ一萬八千ノ大學卒業生ガ一年早ク實社會ニ出ルハ國家ノ現狀ニ鑑ミ重大ナル意義アリト思料スル旨答辯アリ

(二) 近時國民生活ヲ通ジ儀式過多ニ失スルノ嫌アリ學校ニ於ケル體鍊修練ノ時間モ之ヲ一部割愛シ學力低下ヲ補フ方面ニ充ツルヲ

可トシ科目ノ統合ハ觀念的満足ニ促ハルル
ノ傾アリ實質^際上ノ效果ヲ擧グルニ努ムベキ
旨所見ノ開陳アリ

鈴木委員長本日ハ之迄トシ閉會ヲ宣ス

(午後四時三十分閉會)

大學令中改正ノ件外六件第十回審査委員會

昭和十七年十二月二十八日(月曜日)本院事

務所ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

清水顧問官

國務大臣

南(弘)顧問官
奈良顧問官
菅原顧問官
松浦顧問官
潮 顧問官
林 顧問官
二上 顧問官
真野 顧問官
三土 顧問官

説明員

橋田文部大臣

森山法制局長官

入江法制局參事官

荒木法制局參事官

菊池文部次官

藤野文部省總務局長

伊藤文部省總務課長

瀨瀨文部省國民教育局長

清水文部書記官

稲田文部書記官

堀江書記官長

諸橋書記官

高辻書記官

(午前十時二十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣シ師範教育令改正ノ件外
二件ノ細目的審議ニ入ル旨ヲ述ブ
清水委員ヨリ

(一) 師範學校官立移管ニ伴ヒ之ガ卒業生ヲ國
民學校ニ配置スルハ何人ノ所管ニ屬スルヤ
ヲ問ヒ續續文部省國民教育局長ヨリ任免ニ
付テハ文部省之ニ當ルモ配置ハ地方長官之
ヲ行フベク中央ト地方廳トノ連繫ニ付テハ
尚相當考究スベキ旨

(二) 師範學校ニ於ケル給費制度ノ理由ヲ問ヒ
續續文部省國民教育局長ヨリ國民學校ノ義
務教育ニ携ルベキ者ノ養成ハ國家自ラ之ニ
當ルベシトノ趣旨ヨリ一率ニ之ヲ給費トシ

タル旨

(三) 本案ノ學年短縮ニ伴ヒ政府ハ官吏ノ在職年限ノ短縮ヲ含ム停年制ノ設置ヲ考慮スルコトナキカヲ問ヒ森山法制局長官ヨリ全然之ヲ意圖セザル旨夫々答辯アリ

次デ同委員ハ他日大學令改正ニ際シ大學總長ノ選舉制ハ任命大權ヲ肩スノ懸念アルノミナラズ之ガ爲部内ノ教授ニ對スル威嚴ヲ損シ學内ノ統制上遺憾ナキヲ保シ難キニ由リ之ニ檢討ヲ加ヘ改正ヲ考慮スベキコト竝ニ東北九州

相
密
院

兩帝國大學法文學部ヲ法文兩學部ニ分離スルコトノ當否及講座給制ノ當否ヲ夫々研究スベキコト等希望意見ノ開陳アリ
南委員ヨリ

- (一) 師範學校ニ付テハ一般的學年短縮ニ反シ修業年限ヲ延長スルノ理由ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ國民ノ基礎教育ヲ完全ナラシムルニ資センガ爲ナルモ修業年限ハ全体的ニ觀レバ結局從來ト同様ナル旨
- (二) 現ニ本科訓導ニ付テ存スル相當數ノ無資

區
密
院

格者ヲ有資格者ニ代フルコトコソ現下喫緊ノ要務ナリトシ當局ノ考慮ヲ求メ菊池文部次官ヨリ本科教員中有資格者ノ全體ニ對スル割合ハ約七〇%ナルモ男子教員ノミニニ付テ謂ヘバ漸次充實シツツアル旨

(三)師範學校ハ府縣立トシテ始メテ府縣ノ事情ニ即スベキニ之ヲ教育審議會ノ議ニ反シ敢テ官立ニ移管セントスル理由ヲ問ヒ橋田文部大臣ヨリ教育審議會ノ眞ノ希望ハ官立ニ在リタルト國家自ラ義務教育ヲ擔當スベ

キ教員ノ養成ニ當ルコトヲ判然タラシムル爲ニ之ヲ官立ト爲サントスル旨菊池文部次官ヨリ之ヲ官立トスルモ地方ノ實情ニ即シタル運営ヲ爲スベク努ムベキ旨夫々答辯アリ

次デ同委員ハ高等師範學校ハ師範學校ニ比シ入學資格者同一ニシテ其ノ課程一年ノ差ニ過ギズ又之ヲ大學ニ比較スルニ其ノ課程一年ノ差ヲ存スルノミ茲ニ於テ高等師範學校ノ地位ハ困難ヲ加フベク由テ之ニ代フルニ師範大學

ヲ設立シ中等學校教員ハ總テ之ガ卒業生ヲ以テ充ツベク當局ニ於テ慎重考究スベキ旨希望ヲ述ブ

(休憩正午乃至午後一時四十分)

奈良委員ヨリ外國語ノ整理及信仰心ノ培養ニ付所見ノ開陳アリ

菅原委員ヨリ

(一)師範學校官立移管ノ上ハ之ガ運営ニ付本位ノ傾向ト府縣本位ノ傾向トノ間自ラ衝突ヲ來スノ虞アリ之ガ爲ニハ經費ノ分擔其ノ

他ニ於テ兩者ノ間ヲ協調セシムベキ何等カノ楔ヲ打ツヲ要スベシトシ當局ノ所見ヲ求メ續續文部省國民教育局長ヨリ義務教育ニ當ル者ヲ國家自ラ養成スルノ見地ヨリ之ヲ官立トシ經費ハ凡テ國家ニ於テ之ヲ受持ツモ地域的ニハ固ヨリ地方廳トノ關係アリ即チ教員ノ任免ハ文部省之ニ當ルモ配置ハ地方廳之ヲ行ヒ又地方廳ト學校トノ連繫ニ付テハ協議會ヲ設ケ府縣ノ實情ニ即チ教員ヲ養成スベク注意ヲ加ヘ兩者遊離セシムザル

様努ムベキ旨

(二) 國民學校ノ教育ノ爲ニスル經費負擔ノ區分ハ頗ル曖昧ナリ國民學校令第三十三條ノ規定ハ國民學校ノ經費ハ原則トシテ市町村ノ負擔スト云フニ拘ラズ現在ハ全額ノ一割内外ヲ負擔スルニ過ギズ教員ノ俸給ノ如キハ道府縣之ヲ負擔シ又其ノ一部ハ國庫之ヲ補助スルガ如キ關係ニ在リ之ガ統制整理ノ要アリトシ政府ノ所見ヲ求メ橋田文部大臣ヨリ將來充分考究スベキ旨夫々答辯アリ

松浦委員ヨリ

(一) 教員優遇ノ爲ニスル財政上ノ措置ヲ問ヒ續續文部省國民教育局長ヨリ新制師範學校卒業生ノ初任給ハ之ヲ中等學校教員ノ初任給並ニ引上げ現在ノ教員トノ調整ニ付テハ師範學校研究科ニ於テ半年程度ノ再教育ヲ施シ之ニ對シ相當ノ増俸ヲ認メ又一般増俸ノ所定率及年限ヲ改メ新制ト現在トノ待遇上ノ不均衡ヲ漸次改善シ約十年ノ時日ヲ以テ全般ノ教員俸給ヲ中等學校並ト爲スベキ

旨而シテ之が財源ハ分與税ニ求ムベキ旨
(二)國民學校教員ニ對スル精神上ノ優遇方法
ヲ問ヒ續續文部省教育局長ヨリ新制ノ卒業
者ハ單ニ校長教頭ニ止マラズ訓導ヲモ其ノ
一定數ハ奏任待遇ト爲シ得ル様考慮中ナル
旨
(三)實業學校普通科教員ノ養成機關ヲ問ヒ續
續文部省國民教育局長ヨリ別途考究中ニ屬
シ師範教育令第十二條ニハ實業學校教員ニ
付觸ルル所ナキモ差當リハ現在ト同様高等

及女子高等師範
師範學校ノ卒業生ヨリモ之ヲ供給スベキ旨
夫々答辯アリ

潮委員ヨリ

(一)師範學校公立ノ妙味ハ地方教育トハ關聯
ニ考ヘ容易ニ棄テ難キモノアリ然ルニ本案
ハ道府縣ノ負擔ヲ國費ニ移シ爲ニ學校ト地
方教育トハ遊離スルノ嫌アリトシ當局ノ所
見ヲ求メ續續文部省國民教育局長ヨリ官立
移管ニ由リ地方トノ連繫薄ラゲガ如キコト
ナカラシムル様充分ノ注意ヲ拂フベキ旨

相
密
院

(二) 學年短縮及師範教育令ノ關係閣議決定ニ
短期間中數回ノ變更アリタル次第ヲ問ヒ菊
池文部次官ヨリ學制改革ノ諸點ハ相並行シ
テ考究中ナリシ爲一點ノ決定ガ他ノ點ニ影
響シ變更ヲ餘儀ナクセラレタルモノナル旨
(三) 師範學校ノ施設ヲ國ニ移管スル際府縣會
ニ於テ之ヲ肯セザル際ハ如何ニ爲スカヲ問
ヒ古井内務省地方局長ヨリ府縣制ノ關係條
規ニ依リ夫々措置ヲ講ズベク但ダ希望ノ議
決ヲ得ラレザル場合害公益ニ當ルヤ否ニ付

テハ尚研究ヲ要スベキ旨

(四) 昇格師範學校卒業生ニ對スル待遇改善ノ
問題ハ市町村吏員其ノ他ノ待遇改善ノ問題
ト相牽聯シ其ノ財源ヲ分與稅ニ求ムルモ將
來克ク之ガ負擔ニ堪フルヤ否ヤ相當ノ懸念
アリトシ當局ノ所見ヲ求メ古井内務省地方
局長ヨリ地方ノ負擔ガ増嵩スルハ免レザル
所ニシテ其ノ特ニ顯著ナル明後年以降ニ付
テハ更ニ地方財政全般ニ亘リ考究ヲ遂グベ
キ旨夫々答辯アリ

林委員ヨリ

(一) 師範教育令第五條ノ師範學校本科入學資格者ト別添委任命令案ニ依ル同等以上ノ學力認定者トノ關係ニ付他校ノ豫科修了者ハ當然當該學校本科ノ入學資格ヲ與フルヲ適當トセザルカラ問ヒ森山法制局長官ヨリ法制ノ建前トシテ右第五條ハ優先劣後ノ關係ヲ示シ委任命令案ハ劣後關係ニ於テ他校ノ豫科卒業者ヲ同等以上ノ學力認定者ニ加ヘタルニ外ナラザル旨菊池文部次官ヨリ豫科

ハ本科ト一體ト爲リ全體ノ部分トシテ本科ニ繋ガルモノナルニ由リ之ヲ第一ニ置キ但ダ諸種ノ事情ニ依リ他校ヨリ移ラントスル者ノ爲ニ委任命令ヲ以テ其ノ資格ヲ認ムルコトトシタル旨

(二) 師範教育令第六條ガ懲戒ニ關スル規程ヲ委任命令ニ讓ル所以ヲ問ヒ森山法制局長官及續續文部省國民教育局長ヨリ義務教育ノ觀點ヨリ直接勅令ニ規定シタル國民學校令ヲ除ク他ノ學校令ト步調ヲ一ニシタル旨

(三)附則第二項ニ付訊シ森山法制局長官ヨリ
明年三月ノ卒業豫定者ハ新制ノ師範學校生
徒タラシメントスル條項ニシテ之ガ爲ニハ
三月三十一日ニ至ルモ卒業セザルコトトシ
其ノ四月一日ニ接着スル際同校ニ在學スル
者トシテ新制ヲ適用セントスル旨夫々答辯
アリ

鈴木委員長本日ハ之迄トシ閉會スル旨ヲ宣ス
(午後五時閉會)

大學令中改正ノ件外六件第十一回審査委員會

昭和十七年十二月二十九日(火曜日)本院
事務所ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

清水顧問官

南(弘)顧問官

奈良顧問官

菅原顧問官

松浦顧問官

潮顧問官

林顧問官

二上顧問官

真野顧問官

三土顧問官

國務大臣

橋田文部大臣

説明員

森山法制局長官

荒木法制局參事官

菊池文部次官

藤野文部省總務局長

續續文部省國民教育局長

伊藤文部省總務課長

清水文部書記官

稲田文部書記官

堀江書記官長
諸橋書記官
高辻書記官

(午前十時三十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

二上委員ヨリ

(一) 師範學校令第八條ノ研究科ト附則第五項ノ專攻科トヲ兩存スル理由ヲ問ヒ續續文部省國民^教育局長ヨリ研究科ハ國民學校教員

ノ再教育ノ爲ニシ專攻科ハ昭和二十一年度迄ニ師範學校女子部本科ニ入學シタル者ニ付テハ三年ノ修業年限ヲ二年トスルニ由リ特ニ當分ノ内一年ノ專攻科ヲ置クコトトシタル旨

(二) 附屬國民學校ハ従前省令ニ依リタルモ今回之ヲ師範教育令ニ移シタル理由ヲ問ヒ續續局長ヨリ師範教育ハ實習ノ必要上當然國民學校ノ附設ヲ要シ而モ相當重要ナルガ故ニ之ヲ勅令ニ規定シタル旨

(三) 附屬國民學校及附屬幼稚園ニハ當然國民學校令及幼稚園令ノ適用ナキカ又之ニ兩令ヲ準用スルヲ要スルモノトセバ準用セザル規定ハ必要ナキカヲ問ヒ尚附屬幼稚園ニ國民學校令第二十條ヲ準用スル所以ヲ問ヒ續續局長ヨリ官立ナルニ依リ國民學校令及幼稚園令ハ當然ノ適用ナク非準用規定ハ主トシテ公立ヲ前提トスルモノナルニ由リ之ガ必要ナキ旨而シテ國民學校令第二十條ノ準用ハ幼稚園令第十二條ノ四ノ規定ヲ存スル

ニ由ル旨

(四) 附則末項ニ付昇格前ノ師範學校卒業生ヲ昇格後ノ師範學校卒業生ト同一ニ看做ス所以ヲ問ヒ續續局長ヨリ旧制卒業生ニシテ現ニ在職セザル者ガ再ビ教職ニ就ク際國民學校本科訓導タルヲ得シメントスル趣旨ニ出デタル旨

(五) 附則ニ所謂年度ノ時期ヲ問ヒ續續局長ヨリ卒業ニ付テハ翌年ノ三月入學ニ付テハ同年ノ四月ヲ意味スル旨夫々答辯アリ

眞野委員ヨリ師範教育令ニハ實業學校教員養成ノ趣旨ナリ之ガ爲實業教育ヲシテ一層係ノ觀ヲ深カラシムル懸念アリトシ菊池文部次官ヨリ實業學校教員ノ養成ニ付テハ師範大學等高級教員ノ養成ト關聯シ將來充分考究スベキ旨答辯アリ

三土委員ヨリ府縣視學ヲ視學官ニ任用スルハ學校教職員ノ人事ヲ明朗化ナラシメ延テ師範學校入學志望者ヲ増加スル所以ナリトシ實際上ノ狀況ヲ問ヒ額額局長ヨリ視學官ニ任用ス

ルノ途ハ開カレ居ルモ實例ハ皆無ニ近ク趣旨ノ點ハ將來考慮スベキ旨答辯アリ

鈴木委員長ヨリ帝國今日ノ盛運ハ多數學士ノ養成ニ俟ツ所至大ナリ今回ノ修業年限ノ短縮ハ國家非常ノ際已ムヲ得ズトスルモ陸海軍ノ學校ガ高等學校入學者ト同一資格者中ヨリ採用シ前後七八年ノ教育ヲ施シ戰時ト雖之ヲ忽ニセザルニ比シ國家ノ文運ヲ擔フ帝國大學卒業生ガ高等學校入學後僅ニ五年ヲ以テ世ニ出ルハ憂慮ニ堪ヘザル所ナリトシ帝國ノ盛運ヲ

シテ苟モ衰退ナカラシメンガ爲機會ノ到來次第速ニ舊制ニ復歸セシメラルベキ旨希望意見ノ開陳アリ

橋田文部大臣ヨリ審査委員會終了ニ際シ委員ノ連日ニ亘ル盡力ニ對シ謝意ノ表明アリ
原議長ヨリ教育ノ効果ハ教育ノ方法ニモ係リ必ズシモ年限ノミヲ以テ之ヲ云々シ得ガルモ假ニ同一ノ方法ヲ以テスレバ其ノ長キヲ勝レリトスルハ必定ナリ若シ今回ノ教育方法ノ改善ヲ以テシテ從前通ノ年限ヲ用フレバ教育ノ

效果完キニ近カルベシ然ルニ當局ガ時局ノ關係上學年ノ短縮ヲ敢テセラレントスルニ付テハ多大ノ同情ヲ表スルモ萬一ニモ之ヲ以テ理想的ナルモノトセバ誤レルモ甚シキモノナリ今日ノ修業年限ヲ以テシテ尚満足スベキニ非ザルニ之ヲ一層短縮セントスルハ飽ク迄モ時局已ムヲ得ザルニ出デタル所トシ戰時態勢除去ノ際ハ速ニ之ニ再檢討ヲ加ヘ理想的制度ノ樹立ニカムベク此ノ旨ハ文部當局ノ記録ニ記載シ置カルベキ旨希望意見ノ表明アリ

鈴木委員長ハ以上ヲ以テ質問終了ト認め大臣
及説明員ノ退席ヲ求ム

(休憩午後零時三十分乃至同一時三十分)

夫ヨリ委員間ノ協議ニ入り各委員ヨリ希望意
見ノ開陳アリ結局修業年限ノ短縮ニ伴ヒ學力
低下其ノ他教育上ニ及ボスベキ影響ヲ省察シ
之ガ對策ニ遺算ナキラ期シ他日戰時態勢解消
ノ際ハ速ニ之ニ再檢討ヲ加フベキコト、師範學
校ノ改制實施ニ付テハ克ク學校昇格ノ實ヲ揚
ゲ地方ノ實情ニ即スルノ措置ヲ講ジ尚師範教

育制度ノ全般ニ亘リ攻究ヲ遂ゲ其ノ整備ヲ期
シ併セテ實業教員ノ養成ニ付適當ノ施設ヲ爲
スベキコト、危險思想ノ排除ニ大ニ力ヲ用フル
コト等ノ希望事項ト共ニ本案ノ諸件ハ之ヲ可
決スベキ旨全會一致ヲ以テ議決ス
仍テ委員長閉會ヲ宣ス

(午後二時三十分閉會)